多くの新弟子を精力的にスカウトしながらも、部屋頭の夢力に続く力士が出てこないのが悩みの香具山部屋だが、豊田が先場所4勝をあげて西七枚目に躍進し、いよいよ十両が視野に入って来た。「豊田！関取の座を掴むんだぞ！」と香具山親方の檄が飛ぶ。

十両からの陥落組では、醍醐、響竜、雪若丸が一場所での復帰を目指す。

有望な新弟子が次々と入幕して楽しみな勝間田部屋は、今や新関脇の出羽翼を筆頭に7人が幕内に名を連ねており、それに続けと幕下も所謂「勝間田銀座」となっている。幕下最大数の6力士が虎視眈々と関取の座を目指して凌ぎを削っている羨ましい状況だ。

柏陵山○（寄り切り）●森　田

醍　醐○（押し倒し）●響　竜

その他の部屋では、英部屋、鹿賀乃戸部屋九十九部屋も3人ずつ番付に名を連ね、切磋琢磨の状況。

そのような中、初日に白星発進したのは、醍醐、西勢ノ里、若雲山、真田丸、暫などだが、勝間田部屋の6人は5人が勝ち星をあげて好発進した。勝間田親方は思わずニンマリと口元が緩んでいた。（錦虎）

宇治家●（上手捻り）○若雲山

三段目～序の口

三段目は東西筆頭に西神門と西渡海の春日根の2人が鎮座。幕下が目の前となり、ともに気合十分といった中での初日だったが、西渡海は勝ったが西神門が直風に敗れて両者白星発進とはならなかった。

序二段は、付出枠が増え三段目と同じくも東西16枚の番付となった。東筆頭の桜庭はこれまで三段目で何度か幕下入りを掴めそうなところまでいきながら、このところの低迷で序二段に落ちたが、初日を白星で飾り、また三段目に番付を戻したいところだ。

先場所が初土俵同士の西龍と高山の対戦は高山に軍配。今場所がまだ2場所目であるが、豊田に次ぐ幕下力士は誰になるのか、親方はずっと待ちわびているが意外にも花形や三国らを追い抜き先に高山がということもあるかも知れない。部屋での出世争いも高まりそう。

西　龍●（寄り切り）○高　山

青木竜●（寄り切り）○桜　庭

先場所序二段を制し俄然注目される存在になってきた大松戸部屋の松山。連日いい相撲をみせて親方衆を唸らせ見事に優勝を果たしたが、今場所もその勢いは健在だ。初日に荒鯱を下しこれで負けなしの6連勝。二日目以降どこまで連勝を伸ばすのか目が離せないところ。

豊田が幕下入りを果たしてから後に続く力士が出て来ない香具山勢は今場所3人が在籍。最上位の花形に昇進の期待を寄せる親方であるが、桐壺の技能派若武田に寄り切られ黒星スター。しかし三国と山下は難敵の木幡と虎前田をそれぞれ破って好発進。夢力を筆頭に花形以外各段で部屋の力士が白星を上げて香具山親方は上機嫌だった。

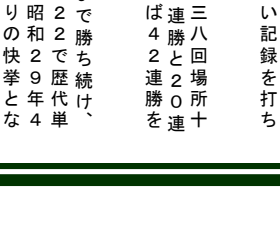
虎前田●（寄り切り）○山　下

松　山○（寄り切り）●荒　鯱

辰輝灘部屋誕生

先代霧ヶ浜親方である椎橋氏の活動再開に伴い、既に霧ヶ浜名跡は山口氏に承継され部屋を興していることから、朝日松理事長、富士浪元理事長の発議により、新たに辰輝灘部屋が誕生した。先代鹿賀乃戸親方である横綱辰輝灘の愛弟子隅田川（現花ノ井親方）が名跡を変更する予定。「辰輝灘」は第134回新設の英に続き、100番目の年寄名跡となる。

江戸川部屋からは江戸嘉納治五郎が見参。先場所の江戸金栗に続いて「いだてん」から命名。霧ヶ浜部屋の朝勝を下して韋駄天スタート。他には、鴨川部屋では本郷、住之江部屋の糸原、大松戸部屋の松ノ藤、荒笠部屋の蓼丸などが初日を飾った。（勝間田）



朝　勝●（上手投げ）○江嘉納

讃岐富○（寄り切り）●　剣

元幕下力士の讃岐富士が130回場所の初土俵以来の序の口に陥落。今場所が最後の土俵となってしまうのか心配されたが、若波部屋の剣に勝って初日を何とか切り抜けた。

序の口は、総勢24人での争い。中でも注目力士としてまずは春日根部屋の西強。四股名からしてすでに文字通り最強な感じである。初日は難なく島内を寄り切り早くも優勝候補筆頭の予感。

西　強○（寄り切り）●島　内

古今東西

紙相撲豆知識㊿　幕内連勝記録2

横綱美空富士が五日目、月山を寄り切りに下して連勝記録を先場所初日から16と伸ばした。

これは歴代では9位タイの好記録だ。歴代1位は横綱荒登の第八回場所千秋楽～第十一回場所三日目まで、横綱扇灘の第六四回場所三日目～第六六回場所六日目までの26連勝が最多連勝記録である。

荒登は第九回、第十回を全勝優勝で制しての記録であり、2場所連続全勝優勝の記録は未だにこの一度だけである。

扇灘の連勝もまた圧巻であり、26連勝の直前、第64回本場所二日目に千代鈴に敗れる前に16連勝しており、また第六六回場所七日目に輝雄山に敗れた後八日目から第六八回場所七日目に円海山に破れるまで21連勝している。仮に千代鈴、輝雄山に勝っていたら、65連勝というとんでもない記録を打ち立てていたことになる。

また、不滅の横綱照の花も第三八回場所十日目の一発の敗戦を挟んで21連勝と20連勝しており、一発に勝っていれば42連勝を達成していたことになる。

ちなみに美空富士が千秋楽まで勝ち続け、全勝優勝となると、連勝記録は2で歴代単独4位、2場所連続全勝優勝は昭和29年4月の第十回荒登以来、65年振りの快挙となる。

幕内連勝記録			
順位	四股名	連勝	場所
1	荒登	26	八回～十一回
〃	扇灘	26	六四回～六六回
3	荒登	25	十六回～十八回
4	照の花	21	三六回～三八回
〃	扇灘	21	六三回～六八回
6	照の花	20	三八回～四十回
〃	富士登	19	五九回～六十回
7	英	19	百十一回～百十二回
〃	扇灘	16	六二回～六四回
9	美空富士	16	百四八回～